

雪やなぎ

令和4年2月発行

102号



理念

一人ひとりの立場で考え、
共に生きる豊かな社会を目指す

基本指針

- ・利用者に対して「サービスの質の向上」をはかります。
- ・地域社会に対して「地域包括ケア」の中心的な役割を担います。
- ・福祉専門職員として資質向上をはかります。
- ・透明性のある組織体制を強化します。



発行／社会福祉法人大野福祉会

発行責任者 柴山佳樹

〒912-0061 大野市篠座17-23
TEL(0779)66-3320 FAX(0779)66-3319
<https://www.oonofukushikai.jp/>



ごあいさつ

グループホーム管理者

深 美 幸 代

この度、令和3年10月より共同生活援助事業所（グループホーム）の管理者に就任致しました深美と申します。

今般、むつみ園の生活支援課から年度途中での異動となり、新たな業務の遂行とともにその職責への重みを痛感している昨今です。

さて、障がい者のグループホームが平成元年に制度化されて30有余年、当法人のグループホームの歴史はそれから少し遅れ平成11年「たんぽぽ」の開所に始まります。

当時は、地域で普通に暮らす住まいとして制度化され、家庭的な共同生活の場としてスタートし、入所施設や病院そして在宅から幾多の入居者を受入れ、最盛期には6ホーム30名の利用もありましたが現在は5ホーム22名の地域での暮らしを支援させていただいています。

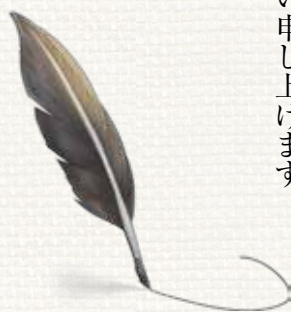
開所当時から利用されている方も多く、20年余りの時の流れにおいて高齢化や心身の状

態の変化がみられ、これまでの自立生活やその支援が様変わりしています。

これらに対応すべく、支援体制はもとより住環境の整備や介護など専門的な支援の質・量の増大等多くの課題を受け止めつつ、当法人においてもグループホームのあり方の見直しと改革の必要性に迫られています。

グループホームはひとり一人のそれぞれの暮らしを支える住まいであること、地域社会とつながりながら本人の望む暮らしを豊かにすることを前提に、それぞれの思いに丁寧に向き合い、その自己実現の具現化を目指し尽力したいと思います。

今後ともより一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



人事異動

◎退職

グループホーム（サービス管理責任者）

大藤 陽子

（令和3年10月1日付）

◎昇格

グループホーム 管理者
（兼）サービス管理責任者 深美 幸代



グループホーム GHの休日

大野福祉会のグループホームには、
45歳から77歳までの方が、男性3ホーム、女性2ホーム
に分かれて、地域の中で一軒家で暮らしています。
そんなGHの暮らしを紹介します。



ホームの周囲を散歩
ダイエットや糖尿病の方は、天気が
良い日はお散歩に出られます。



10:00

12:00



昼食
昼食は自分で買いに行ったり、お弁当を
注文したり様々です。外食に行かれる事も。



支援員とお買い物
歩くには遠いお店や衣類や靴等の買い物
には支援員が付き添います。どんな物を
購入したいか、事前によく相談し、
自分で選んで頂けるようにしています。

14:00

16:30



**夕食の
準備**

女性のホームでは、当番制で夕食を利用者
様が作られます。事前に世話人さんとよく
相談されてメニューを決めています。



みんなで夕食
新型コロナウイルス感染予防の為に、
時間差で食事を楽しみます。作る人によって、
色んなメニューが食卓を彩ります。

18:00

19:00



**食事の
片づけ**



他にも、おやつを作ったり、
外食に行ったり、地域の集まりに
参加しています。



居宅生活訓練事業

施設生活

ホップ

Hop

居宅生活訓練

ステップ

Step

Jump!

ジャンプ

地域生活

大野荘での施設生活（ホップ）から居宅生活訓練事業（ステップ）を経て、目標の地域生活へ（ジャンプ）……との願いを込めて、事業所名を「すてつぷ」とし、平成23年度に事業開始しています。

そこでは食事や洗濯、掃除等の家事全般や金銭管理などの日常生活訓練のほか、通院や服薬などの健康管理、買い物や地域行事への参加等の社会生活訓練を行い、自立した生活に向けて支援を行っています。

介護施設に入所している利用者と、再び地域生活を送りたいという方を対象に、地域の中にある訓練用住宅（アパートや借家）において生活訓練を行うことで、円滑に地域生活に戻れるように支援を行う事業です。

居宅生活訓練事業とは……

Kさんについて

平成23年4月1日より居宅生活訓練事業を1年利用し、平成24年3月31日に退所。近隣のA市にて就労、アパートにて一人暮らしを始め、地域移行されました。

Q 今、どんな生活をしていますか？

A 平日は仕事に行っています。休日は、今はコロナの影響であまり外に出られないので、近所を散歩したり、買い物に行ったりしています。

Q 今、充実していること・楽しいことは？

A ジョギングをして体を動かすこと、近くのサウナや温泉も大好きです。9月まではバレーもしていて、国体にも出場しました。

Q 逆に、つらいこと・大変なことは？

A 体調が悪い時が大変かな。困ったことは、社協（社会福祉協議会）の方に相談してサポートしてもらっています。

Q すてつぷに居たときの思い出は？

A もう10年近く前になるんですね。当時一緒にすてつぷにいた利用者の方と世話人さんとで、ご飯を作って、話をしながら食べたことが一番の思い出です。

すてつぷ（居宅生活訓練事業）1期生 Kさん インタビュー

担当職員だったMさんに教えてもらったポトフは、今も作って食べています。

Q 現在すてつぷを利用されている方に向けて、ひとこと！

A 掃除と料理は、がんばってしておいた方がいいですね。一人暮らしをしようと、料理はできた方がいいし、絶対に役に立つと思いますよ。

インタビューを終えて

今回、インタビューの依頼を快く引き受けてくださったKさん。地域移行された約10年は、様々なことがありながらも、一人暮らしをしながら仕事もスポーツもがんばっておられ、たくさんお話ししていただきました。

今後は、「また新しいスポーツにも挑戦してみたい」と意欲的に話されるKさんの姿が印象的でした。



Yさん インタビュー

Yさんについて

平成29年10月から2年間、令和3年1月から8か月間の居宅生活訓練事業利用の後、令和3年9月初旬に退所。F市にて就労継続支援B型を利用しながら、アパートにて一人暮らしを始め、地域移行されました。

Q 今、どんな生活をしていますか？

A 平日は仕事（就労継続支援B型）しています。初めは午前中だけだったけど、今は午後3時まで仕事しています。

近道を散歩したり、訪問看護の看護師さんと一緒に車に乗って、買い物に出掛けたりもしています。料理は…、一人分作るのがめんどくさいけど、ご飯はちゃんと炊いています。

Q 今、充実していること・楽しいことは？

A まだ引越して間もないけど、自由にできていることは良いことかな。

Q 逆に、つらいこと・大変なことは？

A お金が底をつかないようにやりくりすることが大変かな。（社協の支援員さんから）サポートを受けながら、決まったお金の中でなんとかやっています。

Q すてつぷに居たときの思い出は？

A 食事のとき、（一緒に暮らしていた）3人でテーブル囲んで食べたのが思い出かな。担当職員のBさんが頼りになる存在でした。

Q 現在すてつぷを利用されている方に向けて、ひとこと！

A 料理は勉強しとくと良いんじゃないかな！

インタビューを終えて

楽しみよりも不安でいっぱいだった引越しの前のYさんでしたが、「お久しぶりです！」と笑顔で出迎えてくれて、お部屋の中もとてもキレイでした。お金のやりくりや一人分の料理は大変だとお話されましたが、一人暮らしの自由さと不自由さの両方を経験しながらも、生活自体は充実されているようで安心しました。

すてつぷの思い出を「食卓を囲んだ3人の食事」と答えられたのがとても印象的でした。すてつぷの家庭的な雰囲気や温もりが、Yさんの心の中に強く残っているのかなと感じました。



現在「すてつぷ」を利用されている方の声

● 自分一人だと気にしないが、何人かで共同生活をしていると、それぞれに食べ物の好き嫌いがあつて、献立が難しいと感じることがある。

● 食材の足しになるかは分からないが、家庭菜園のようないことをしてみたい。

● 地域で生活していけるようになるために頑張っていきたい。

● 周りに流されずに、自分の事は自分で決められるようになりたい。

● 思っていたのと違う部分に戸惑うこともあるが、相談しながらがんばっている。

● ここで学んだ事もあるのですが、これからの生活に役立てていきたい。



支援員より



利用者の方が地域移行される姿をみると、支援員としてこの上ない喜びや達成感があります。居宅生活訓練を通して、利用者本人が望む生活に1歩でも近づけるように、その人に合った個別支援を行っていききたいと思っています。

クリスマス会

大野荘

今年度も各事業所ごとのクリスマス会になり、行事等を企画運営する「地域企画委員会」のメンバー6名が協力して、ハンドベルの演奏をしよう！ということになり、11月から準備を進めてきました。しかし勤務の都合上、全員が揃った練習は1度もできず、不安と緊張もありましたが、クリスマス会当日は、利用者の方々の笑顔と拍手のおかげで、徐々に緊張もほぐれ、「きよしこの夜」と「ジングルベル」を心を込めて演奏することができました。



ハンドベルの演奏の後は、会場の参加者全員で、カスタネット・鈴・タンバリンの楽器を使って、ジングルベルの合奏もしました。

その後は、サンタクロースよりプレゼント（帽子・ひざ掛け）を貰い、各棟でプリンアラモードを食べました。

利用者の方からは、「楽しかったわ。上手やったよ。」「プレゼントが貰えて良かった」「ハンドベルも良かった。また来年もこんなクリスマス会があったらいいな」など、喜びの声をたくさんいただきました。コロナ禍ではありますが、少しでもクリスマスのお雰囲気を感じることができ、利用者の方も職員も笑顔で楽しい時間を過ごすことができました。

大野荘

|テイクアウト|
昼食

そばやうどん・オムライスや牛丼など様々なメニューの中から、希望する料理を選んでもらいました。希望を聞いた時に「何にしようかなー。楽しみだな。」「待ち遠しいな。早く食べたいな」などテイクアウト昼食の日を楽しみにしていると答える方が何人もいました。

当日は、「美味しいな」や「また食べたいな」「今日はとてもおいしい食事だったわ。次の時も楽しみにしているわ。」という楽しそうな会話や、嬉しそうな笑顔があちこちで見られました。



希望外出

むつみ園



11月に自治会の希望外出で古民家レストラン「おがまち」に行ってきました。

『かつ丼膳』や『越前おの荒島ポークカツ膳』など、好きな料理を注文していました。久しぶりの外食が嬉しかったようで、料理が来るとすぐに食べ始め、「美味しいね」と話していました。コロナ禍の為、買い物や外食を控えてもらっている分、少しでも希望に沿う外出になるよう計画した希望外出は、参加した利用者の方から「美味しかった」「また行きたい」ととても満足していただきました。



むつみ園

クリスマス会



今年度もコロナウィルスの影響で事業所ごとでのクリスマス会の開催となりました。

利用者のAさんから、「今年はジングルベルをみんなの前で演奏したい」という希望があり、クリスマス会前から練習に取り組んでいました。しかし…弾き慣れないキーボードに悪戦苦闘。途中で何度か諦めてしまいそうな様子も見られましたが、みんなに喜んでもらいたいという気持ちと、周りの人の声掛けでやる気を持ち直し、最後まで練習に取り組んできました。クリスマス会当日は緊張した様子ではありましたが、練習の成果を十二分に発揮する事ができ演奏は大成。演奏を聴いた人たちの温かい拍手で「来年はもっと上手にみんなの前で演奏ができるようになりたい。」と、とても意欲的で、すでに来年度のクリスマス会に気持ちが向いていました。

演奏の後は皆で『ジングルベル』の合唱をしたり、サンタさんから一人一人にプレゼントを貰ったり、美味しいケーキをいただいて、短い時間ではありましたがクリスマスの雰囲気を感じる時間を過ごしました。

よもやま

祝
成人

おめでとうございます。



よもやまで仕事をがんばりたいです。
工賃を貯めて、野球観戦に行きたい
な。ソフトバンクか阪神タイガースの
野球の試合を観に行けるように、仕
事をがんばります！

支援員より ▼ Yさんは奥越特別支援学校の在学中、2回の実習を経て令和2年の4月からよもやまに通っています。18歳のYさんにとっては、年上の人達の中での仕事であり、初めはコミュニケーションに戸惑う事も多くあったように思われます。また、働いて賃金を得る喜びも見られました。賃金がアップした月は、嬉しそうに、私に数字を見せてくれます。そして、そっと二人でガッツポーズをすることもあります。頑張つて賃金上がることで、仕事のモチベーションになっていることは、よもやまの職員も効率のよい作業種を確保していく必要があります、責任を強く感じるところです。

Yさんのよもやままでの2年間は、苦手なことにも少しずつ挑戦し、頼もしくなってきました。また、先輩たちからも人気があり、いつも楽しく会話をされています。それは、仕事をしていく中で、周囲の人の動きをよく見ていて、困った人がいた時は、そっと手伝える気づかいがある優しい人柄だからだと思います。Yさんからは、御家族のあたたかさも伝わってきます。人との関わりの中で育っていくもので、これから出会いや繋がりを大切に頑張っていただきたいです。上手くいかないうちでも、どんな時も見方はいます。よもやまのみんなは、いつも応援しています。

ケアマネ研究会に
参加して

ケアマネ研究会では、福井県立大学の岡田先生に講師をお願いし、主に何名かの利用者に焦点を当てて基本情報やモニタリング、職員から見た観点等も踏まえて、この方にはどういった支援が効果的であるのかを考えてきました。最初は職員の「こうあるべき」という気持ちや、現実的でない等の理由で、利用者の意向に沿った支援計画を立てることが出来ずにとっても悩みました。しかし、問題解決することに重きをおくのではなく、本人の好きなことややりたいことに焦点を当てて考えることが大切であるということを経験することが出来ました。約2年間ケアマネ研究会を通して学んだことを今後の支援に活かしていきたいと思っています。



編集
後記

2020年1月に最初に日本でコロナウイルス感染者が出てから、もう2年が経ちました。はじめのうちはすぐに元の生活に戻るだろうと思っていました。思った以上に難敵でしたね。昨年の秋ごろには急激に感染者が減り、施設利用者の方も市内の買い物や外出が徐々に再開されました。長い間辛抱していたこともあり、久しぶりの外出をとっても喜ばれていました。しかし、また新たな変異株「オミクロン株」の出現もあり、まだまだ気を抜けない状況です。利用者の皆さんの笑顔が少しでも多く見られるように、支援員として日々試行錯誤していききたいと思います。

ご寄附ありがとうございました

福井銀行教育福祉財団様より
歩行器 3台
歯ブラシ殺菌庫

を寄贈していただきました。
大切に使用させていただきます。

